

高密度播種苗移植（密播・密苗）

作物

県中農林事務所須賀川農業普及所

1 技術の特徴

- 密苗
播種量を慣行栽培の2～3倍にすることで、苗箱を減らし、育苗ハウス面積や播種及び苗運搬時間の削減につなげることが出来る。
- メーカー名：ヤンマーアグリジャパン株式会社



図1 密苗の生育



図2 移植作業風景

2 省力・低コストの効果

- 密苗と慣行の比較

	慣行(a)	密苗(b)	a-b	%
播種量(g/箱)	120	350	—	—
使用箱数(枚/10a)	20	10	10	50
移植作業時間(時間/ha)	2	1.5	0.5	75
育苗培土(円/10a)	1843	901	942	49
育苗ハウス面積(m ² /ha)	48	31	17	65
単収(kg/10a)	660.6	667.1	—	—

収量に差はなく、育苗ハウス面積や作業時間の削減につながった。

3 メリットと留意点

- 密苗による苗箱数削減により、育苗スペース、労力、コストを削減できた。
- 苗箱数の削減により、苗積み時間が短縮され、田植え時間の短縮につながった。
- ▲ 苗の老化が早いため、春作業のスケジュール管理が重要となる。
- ▲ ほ場あたりの箱処理剤の施薬量が少なくなるため、本田管理を徹底する必要がある。

経営モデル

県中農林事務所須賀川農業普及所
作物名：水稲

現状23haの移植栽培をしている稲作経営体が高密度播種移植栽培田植機を導入し、全て密苗で栽培した場合を想定した経営モデル。

前提条件

項目	内容	
想定モデル規模	労働力	4名（臨時雇用2名）
	栽培面積	23ha
	品種	天のつぶ(11.5ha) コシヒカリ(6.9ha) その他(4.6ha)
栽培方法	作型	移植栽培(21.8株/m ²)
	播種量(乾籾/箱)	密苗350g
	使用箱数(/10a)	密苗10箱

導入コスト

資材名	数量	耐用年数	金額(円)
密苗田植機	1	7	3,580,500
播種装置	1	7	353,100
合計			3,933,600

項目	技術導入前又は慣行 (面積：23ha)	技術導入後 (面積：23ha)
生産量 t	138	138
(生産量 (kg) /10a)	600	600
販売額 (千円)	28,980	28,980
(単価円/kg)	210	210
経営費 (千円)	21,425	20,936
うち 種苗費	478	694
肥料費	2,304	2,304
農薬費	2,104	1,721
小農具費	0	0
諸材料費	797	536
光熱動力費	1,374	1,241
流通経費	3,670	3,670
減価償却費	5,969	6,056
雇用労働費	2,579	2,564
その他※	2,150	2,150
農業所得 (千円)	7,555	8,044

補足説明
(注意事項等)

○さらなる規模拡大を行うことで、機械の利用効率を上げ、より低コスト化につなげることが可能。
○規模拡大を行うには、品種構成の見直しを図り、作業時期の分散を行う必要がある。
○移植同時側条施肥機の導入がない場合は、生育初期の病害虫の被害を受けやすいため、病害虫リスクの高いほ場での高密度播種移植栽培は注意が必要。

※その他：賃借料、共済掛金など